

平成 26 年度 事 業 報 告 書

I 法 人 本 部

社会福祉法人啓和会は、平成 26 年度事業計画に基づき、設立の理念と公益性を踏まえ、多様化する福祉ニーズに応えられるよう、提供するサービス機能の整備を行うとともに、その質の向上に努めました。さらに事業経営の透明性の維持のため法令を遵守し、社会情勢の変化に柔軟に対応できる経営姿勢で事業基盤の強化を図りつつ、次に掲げる事業の経営を行いました。

本年度は社会福祉ニーズの要請に応じ、生計困難者に対する相談支援事業と障害福祉ニーズの要請に対しては計画相談支援事業を加えました。

経 営 施 設 等 一 覧

	施 設 名	施 設 種 別	所 在 地	開 設 年 度	利 用	定 員
第 一 種 社 会 福 祉 事 業	久喜けいわ	障害者支援施設	久喜市六万部	(昭和 63 年 7 月)		
		施設入所	1435	平成 21 年 6 月	入 所	60
		生活介護		〃	通 所	67
		就労移行		平成 22 年 3 月	通 所	15
		就労継続 B 型		〃	通 所	32
		短期入所 日中一時 (公益事業)		平成 10 年 4 月 平成 18 年 10 月	入 所 通 所	6
第 2 種 社 会 福 祉 事 業	グループホーム清久	障害福祉サービス事業所 共同生活援助	久喜市上清久 1524-1	平成 18 年 10 月	入 居	40
	久喜市いちょうの木	障害福祉サービス事業所 生活介護	久喜市所久喜 835-1	(平成 19 年 4 月) 平成 24 年 4 月	通 所	40
	久喜市立のぞみ園	児童発達支援事業	久喜市北青柳 1331	(平成 22 年 4 月) 平成 24 年 10 月	通 所	10
	久喜市ゆう・あい	障害福祉サービス事業所 生活介護	久喜市上内 327-6	平成 24 年 4 月	通 所	20
	久喜市あゆみの郷	障害福祉サービス事業所 生活介護 就労継続 B 型	久喜市東大輪 2273-1	平成 24 年 8 月	通 所	15 15
	久喜けいわ	生計困難者に対する 相談支援事業	久喜市六万部 1435	平成 26 年 11 月	—	—

	障害者生活支援センターきよく	相談支援事業	久喜市六万部 1445	平成 26 年 4 月	—	—
	埼玉北障害者生活支援センター	相談支援事業	久喜市青毛 753-1	平成 18 年 10 月	—	—
公益事業	埼玉北障害者生活支援センター	障害児（者）等療育支援事業	久喜市青毛 753-1	平成 11 年 10 月	—	—
		埼玉県地域生活定着支援センター事業		平成 22 年 5 月		
		子どもの発達支援巡回事業		平成 23 年 9 月		
	久喜市障害者就労支援センター	久喜市障害者就労支援事業	久喜市青毛 753-1	平成 16 年 6 月	—	—
	埼玉北障害者就業・生活支援センター	障害者就業・生活支援センター事業	久喜市青毛 753-1	平成 19 年 4 月	—	—

啓和会が掲げる設置理念の目指すところは、障害のある人が地域で安心して暮らせる分け隔てなく包みこむ社会を構築することにあります。そのキーワードは、地域であり、住民であり、住民とのつながりであることを私たちは常々強調してまいりました。

その趣旨で、「ふれあいの家しらはた」の活用は、地域住民とのつながりを深めるための役割を担っています。今年度の利用状況は、地元清久地区婦人会上清久新田支部の事業として毎月 1 回行う高齢者のデイサービスを 9 回開催しております。参加されるお年寄りも、久喜けいわ創設の頃から草むしりや大豆畑の手入れで応援して下さいました。また、地元住民の打合せの場所にも、久喜けいわやグループホームの入居者と婦人会員との合同の趣味活動の場としても使われています。

はじめるにあたって地域貢献の一つとして位置づけたのですが、結果として地域住民の障害者への理解が深まり、グループホームの夜勤を担って頂けるまでになっています。

平成 26 年度も、法人の理念「人間の尊重と地域社会との共生」のもとに、多機能のサービス提供施設である「久喜けいわ」を障害のある人を地域で支える拠点として、支援センターのコーディネート機能を活用して、法人が経営する事業所間の有機的な連携を図り、質の高いサービスの提供とセーフティネットの役割を果たすことを基本的な立脚点とすることは従来どおりです。

本部施設久喜けいわの内部整備として懸案だった男性棟入所利用者のサービスの質の向上のため、定員を 30 名から 24 名に減らしました。10 月から 6 名の利用者とその家族と協議をはじめ、12 月には新築のグループホームに移行してもらった内諾を得ました。

これで、男性、女性、自立棟の定員が均一化に近づくとともに、ショートステイ 6 名を含めて定員 60 名となり、夜勤職員は従来どおり 3 名の配置です。人手不足の折柄、経営の効率化が図

られました。グループホームの定員は6ホーム26名から8ホーム40名に増員しました。6名の人のホーム適応は良好で、地域住民に見守られて伸びやかで安定した生活を送っています。

災害時緊急避難対策として、国の平成26年度防災拠点スペース増築整備事業（平時は機能訓練棟としての用途をもつ）を再度申請し認可を受けたので、用地取得及び関連する事務手続きを行い、入札では斎藤工業株式会社に落札、工事着工、さまざまな課題はあったものの無事期限内に工事完了。平成27年3月31日に建物の引渡しを完了しました。これにより平成27年度早期に機能訓練用器材と非常用備蓄品を整備することになります。併せて建物利用規程、災害時の在宅障害者の緊急避難受入れ体制とそのネットワークを構築することが課題です。

平成27年1月に、国、県から平成27年度支援費の報酬改定の見込みが通知され、特に通所サービス提供事業について就労移行、就労継続、生活介護の単価が引き下げられることが示されました。

久喜けいわの就労サービスにおいては、平均工賃月額15,000円を目標にしましたが、本年度は10,500円程度にとどまり、工賃UPはできませんでした。地場製品のけいわ味噌と餃子は、一定の顧客もつき、売れゆきの可能性もありながら伸び悩む理由は、絶えまない品質向上の努力とある程度のシステム化、さらに販路拡大戦略の不足があると考えられます。これを支える職員の熱意が増産力のUPにつながり、ひいては障害のある人の工賃UPを保障していく筈です。

新しい年度には、就労サービスに企業経験のある職員の配置を内定しました。試験的に味噌と餃子の原価計算と損益分岐点等を計算してもらいました。別添資料のとおりです。

在宅障害者のニーズを展望できる窓口としての支援センターからの報告によれば、近年とみに増加しているニーズは発達障害児・者（精神障害を含む）の教育、生活、就労の問題です。これらの人達は今なお制度の谷間にあり、当事者も家族も困難している状態です。支援のあり様も専門性が求められることから、専門家の配置と相談・評価訓練を担当するサテライト型支援センターを他法人と協力で開設を予定。併せて住まいを保障する新しいグループホームを設置する予定です。

新規事業、生活困難者に対する相談支援事業は本部施設久喜けいわで事務長が管理責任者として2例を扱い、1例は好結果で解決し、1例は支援途中で失踪して行方不明となり支援を中止しました。

計画相談支援事業は管理者金子修一が統括し229ケースのプラン作成、81ケースのモニタリングを関連事業所の協力を得て完了しました。

I 本部事業

1 役員会・評議員会及び監事会の開催

日 時	議 題	場 所	出席状況
平成 26 年 5 月 21 日 (水) 監事会 14 : 00 ~ 17 : 30	1 平成 25 年度理事の業務執行状況 2 平成 25 年度財産の状況	久喜けいわ	監事 2 名 常務理事 幹部職員
平成 26 年 5 月 27 日 (火) 第 58 回評議員会 10 : 00 ~ 12 : 20 第 85 回役員会 14 : 00 ~ 15 : 20	1 平成 25 年度事業報告について 2 平成 25 年度決算について 3 新会計基準移行後貸借対照表について 4 施設整備について 5 平成 26 年度第 1 回補正予算について 6 定款の一部変更について 7 規程の一部改正について (運営規程) 8 報告事項 9 その他	久喜けいわ	評議員 14 / 19 理事 8 / 8 監事 2 / 2
平成 26 年 9 月 24 日 (水) 第 59 回評議員会 10 : 00 ~ 12 : 05 第 89 回役員会 14 : 00 ~ 14 : 50	1 理事 (評議員) の選任について 2 幹部職員の人事について 3 施設整備について ・久喜けいわ機能訓練等 (避難スペース) 増築工事 ・久喜けいわ下水道管布設工事 ・グループホーム清久 (上清久) 特定施設水道連結型スプリンクラー設備整備工事 4 生計困難者に対する相談支援事業の事業計画 (案) について 5 定款の一部変更について 6 規程の制定・一部改正について (生計困難者に対する相談支援事業実施規程、運営規程、経理規程、就業規則) 7 平成 26 年度第 2 回補正予算 (案) について 8 その他 ・インターネット公開の対象とする経営情報について	久喜けいわ	評議員 14 / 18 理事 8 / 9 監事 2 / 2
平成 26 年 12 月 17 日 (水) 第 60 回評議員会 10 : 00 ~ 10 : 50	1 施設整備について 2 平成 26 年度第 3 回補正予算 (案) について	久喜けいわ	評議員 13 / 19 理事

第 90 回役員会 14 : 00～14 : 20	3 規程の一部改正について（運営規程） 4 その他		8 / 9 監事 2 / 2
平成 27 年 3 月 26 日（木） 第 61 回評議員会 10 : 00～12 : 30 第 91 回役員会 14 : 00～15 : 30	1 平成 26 年度第 4 回補正予算（案）について 2 平成 27 年度事業計画（案）について 3 平成 27 年度予算（案）について 4 規程の一部改正について（運営規程、 経理規程） 5 その他 ・施設整備について ・給与の改定について	久喜けいわ	評議員 11 / 19 理事 7 / 9 監事 2 / 2

※ 5 月役員会の定款変更は、社会福祉法人の認可等に係る所轄官庁が市から県への変更（本件に係る施設整備計画を断念したため変更不要）。

※ 9 月役員会の役員人事案件は、九十九一成氏の理事・評議員就任について。幹部職員の人事案件は、グループホーム清久管理者について、池並雪枝の退任、金子修一の就任。

2 経営会議の開催

経営会議の要素を含め、定例、臨時を併せて 5 回の幹部会議を開催しました。常務理事以下、各事業所の主任以上の幹部職員が参加していますが、課題解決の早期化が図られつつあります。具体的に早期解決を要する案件については、施設長が招集する即応打合せが有効的でした。自主的な提案、意見交換の成熟が期待されるところです。

本年度は利用者の工賃UP、効率的な事業形態の検討、キャリアパス制度、今後の施設整備構想等が課題になると予想されます。

3 経営財源の確保

(1) 幹部会議における毎月の執行状況のチェックと「地域におけるセーフティネットの役割を果たす」としたスタンスの徹底で、各事業所とも利用率は良好であったことで、自立支援費収入が増えています。

寄附金については本部嘱託職員による啓発啓蒙活動で後援会からの収入が増えました。

(2) 財務分析による効率的経営、業務改善による人件費節約

目標管理は全事業所、概ねできていますが、経費削減は電気料金の値上げ（約 15%）等あり数字としては達成できませんでした。短時間勤務職員の配置増、業務の見直し等により時間外勤務時間の削減につながりました。

(3) 寄付、助成金の活用による財源確保

・平成 26 年度は、次とおり、企業、団体及び個人からの寄付を受け入れました。

寄 附 者	金 額
(本 部)	
恵比寿化成様他 6 企業・2 団体	1,370,000 円
宮川耕一様他 104 名の個人	7,837,170 円
小 計	9,207,170 円
(久喜けいわ)	
ボーイスカウト久喜団様他 4 団体	240,000 円
小林久子様	200,000 円
小 計	440,000 円
(いちょうの木)	
清久婦人会様他 2 団体	20,000 円
(あゆみの郷)	
林光成様他 3 名の個人	137,719 円
合 計	9,804,889 円

・税額控除対象となる社会福祉法人の証明を受けられた影響もあり、前年より 176 万円増収となりました。

・次のとおり、助成金を受け入れました。

内 容	金 額
(本 部)	
埼玉労働局 特定就職困難者雇用開発助成金 (重度知的障害者)	670,000 円

4 施設整備等

(1) 下記の施設整備を実施しました。

① 法人本部事業施設整備等

事 業 内 容	事 業 費 (円)	財 源 (円)
1 機能訓練棟 (避難スペース) 建築用土地購入	8,150,000	自己資金
2 集落排水接続整備	11,016,000	〃
3 残土処理	5,997,240	〃
4 機能訓練棟 (避難スペース) 増築	184,464,000	内 35,700,000 補助金
5 GH (上清久) スプリンクラー整備	4,633,200	内 3,077,000 補助金
計	214,290,440	

② 利用者の利便性を高めるため、サービスの質の向上、業務の効率化のための整備

事業内容	事業費(円)	財源(円)
1 医務室医療用ベッド設置	117,720	自己資金
2 自立棟エレベーター修理	456,840	〃
3 支援用車両(カラーフィールドター)購入	320,000	〃
4 ネットバンキング用パソコン設置	116,424	〃
5 GH(おぎそね)生活家電製品等整備	867,788	〃
6 福祉見聞録用パソコン設置(2台)	224,640	〃
7 自立棟給湯器漏水修理	127,440	〃
8 事務所内分配器修理	273,980	〃
9 非常用照明器具バッテリー等交換	203,796	〃
10 自立棟エアコン室外機修理	918,000	〃
11 GH(こがらい)生活家電製品等整備	765,308	〃
12 生活棟・自立棟非常灯・誘導灯交換	263,088	〃
計	4,655,024	

① ② 総 額	218,945,464	
---------	-------------	--

(2) 喫緊に整備を要するものとして、味噌の増産に伴う醸造保管倉庫(鉄骨、約50㎡)の整備と通所利用者の自転車置場の整備がありますが適切な場所がなく困難しています。

5 危機管理の体系化と対策の強化

- ・危機管理委員会の再編成を行い、災害対策(火災、地震、暴風雨、水害等)と感染予防の体系化と強化を図り、職員・家族・関係機関の緊急連絡網(携帯・固定電話とIT)と大方の防災器具等を整備し、家具の固定化等も行いました。
- ・入所利用者の生活面でのリスク管理で、他害・転倒・けが等は減じましたが、与薬管理ではミスが増加しています。原因は申し送りと確認の不十分さがあるので早急に看護師の指導やチェックを加え、報連相を現実的に強化する対策を要しました。
- ・預り金の適正管理もさらに強化しました。

6 借入金の償還状況

借入年度 借入先	借入額	期首残高	平成26年度 償還補助金	平成26年度 償還金	借入残高
平成18年度 埼玉県民間社会福祉 施設整備促進資金 借入金(生活介護)	円 1,500,000	円 450,000	円 元金 150,000 利子 3,051	円 元金 150,000 利子 3,051	円 300,000

平成 18 年度 埼玉県民間社会福祉 施設整備促進資金 借入金（就労継続）	12,969,000	3,890,700	元金 1,296,900 利子 26,384	元金 1,296,900 利子 26,384	2,593,800
平成 8 年度 福祉医療機構 （生活介護）	67,000,000	10,050,000	利子 3/4 218,587	元金 3,350,000 利子 291,450	6,700,000
平成 18 年度 福祉医療機構 （就労継続）	25,000,000	17,030,000		元金 1,310,000 利子 311,125	15,720,000
埼 玉 県 計	14,469,000	4,340,700		1,446,900	2,893,800
福祉医療機構 計	92,000,000	27,080,000		4,660,000	22,420,000
合 計	106,469,000	31,420,700		6,106,900	25,313,800

7 地域福祉活動

(1) グループホームの入居者のバックアップ（久喜けいわ）

前年に引き続き、法人本部では事務的業務、久喜けいわからは支援、医療、栄養面で、また、相談センターは各種相談や手続き等を行いました。

栄養面では、栄養ケアマネジメントの支援により、肥満の修正や塩分の管理等で成果ががっています。

グループホームにおいても、バックアップを受けるだけでなく、久喜けいわの課題のある入所者の日中支援、体験入所も受け入れています。

(2) 障害者福祉ニーズの調査

26年度の障害者福祉ニーズの調査は、相談センターが受けた相談内容から分析し、傾向を把握しました。

支援センターで詳細、		前年度
生活に関するニーズ	47%	55%
施設に関するニーズ	15%	20%
医療に関するニーズ	24%	12%
職業に関するニーズ	6%	8%
教育に関するニーズ	2%	5%

その他 6% 記入なし

(3) 久喜市フレンドシップ学級運営委員を派遣しました。(久喜けいわ・いちょうの木・支援センター)

(4) 地域にむけた療育研修の実施

① 引き続き、法人事業として、久喜市歯科医師会との共催で、入所利用者と在宅の知的障害者のための歯科保健事業を行ないました。

○事業内容

- 1 入所施設利用者と地域利用者の歯の衛生管理の実態調査
- 2 歯科健診による実態把握と健診結果を踏まえた歯科医による助言指導、意見交換
- 3 歯科健康診断票の作成と利用者本人、家族への説明
- 4 歯科衛生士によるブラッシング指導(久喜けいわ、地域施設)
- 5 歯科医と歯科衛生士による歯の健康と口腔ケアの研修
- 6 歯の健康と疾病について研修会(講師 依田顕先生)をふれあいセンターで開催し、福祉関係者、保護者、一般住民が参加し、好評でした。

受診者は、入所利用者 60 名、地域利用者 109 名でした。

法人の地域福祉活動として毎年継続する予定です。

② 支援センターと協働で触法障害者の支援の現状について研修

(講師 埼玉県地域定着支援センター長 木内氏)

(5) 協力医療機関の開拓

新たに厚生連久喜総合病院の協力が得られました。

(6) ふれあいの家しらはたにおける地域福祉活動

ふれあいの家しらはたを利用して地元高齢者のデイサービスの場として、地区の住民の打ち合わせの場所に、久喜けいわ、グループホームの利用者と地元婦人会との合同の趣味活動の場として活用しました。

(7) 利用者の工賃アップのためにワークセンターにおいて「餃子」の製造をはじめました。販売については注文販売のほか、鷲宮親の会が運営するキッチンこすもすで一般人に食事として提供しています。販売努力は十分ではありませんでした。

8 新規事業

(1) 彩の国あんしんセーフティネット事業(生計困難者に対する相談支援事業)

2例の支援を行いました(本部施設久喜けいわで事務長が担当)。

(2) 計画相談支援事業(きよく)金子修一が管理者として統括

9 人材育成と人材確保

(1) 幹部職員の育成

・経営会議、幹部会議の定期開催に、主任以上を参加させ、会議を通して、PDCAを学習さ

せました。

- ・サービス管理責任者の養成（介護分野・多田、地域分野・相馬・渡邊）を行ないました。
- ・業務コンサルタントを導入し、会議や研修を通して業務上の助言を受けました。
- ・支援課 1 名（新井）を主任に昇格させました。

(2) OJT の充実、合同研修の実施

- ・主任を OJT 責任者として若手職員の指導を担当させました。不慣れな点もあり、成果が十分とはならず、次年度に期待をかけています。
- ・合同研修は全事業所参加で、新任・中堅・幹部について実施しました。研修の方法にはさらに工夫を要しています。

(3) 相談支援従事者現任研修へ参加（渡邊、堤）しました。

(4) 各種資格取得の推進

- ・衛生管理者（河野、塚田）、介護福祉士（吉田）を取得しました。

(5) 職員の労働環境の整備、流出防止

- ・毎月の衛生委員会の開催により、労働環境の整備に努めました。

(6) キャリアパス制度の導入

- ・事務長の統括で導入準備が整ったので新年度には実現する予定です。

(7) 海外研修

- ・海外研修で、職員 2 名（河野・デンマーク、森本・アメリカ）を派遣しました。

10 外部委託給食の評価

毎日の検食簿と毎月の給食会議で評価を行なっていますが、委託後の給食内容には満足の結果がでております。

11 地域社会との連携の強化

- ・日常的活動による住民との連携は、全事業所利用者がいろいろな場面で地域行事や地域活動に自然な形で参加しており、好ましいつながりができてきています。特に、新しく指定管理を受けた久喜市ゆう・あいと久喜市あゆみの郷の事業所は、今までの連携をより強固にする形で努力しております。
- ・清久地区 67 区においては、防災対策について相互協定が結ばれています。清久東部地区防災対策連絡協議会等を軸とする災害時相互支援体制づくりは、現在進行中です。
- ・ふれあいの家しらはたの活用は前述した通りです。有効に活用しています。

12 スポーツ振興事業等の推進

- ・マラソンクラブ、音楽クラブは多くのボランティアのサポートにより順調に活動しています。引き続き本部は振興費の助成を行なっていきます。

13 広報活動の充実

- ・法人のホームページに新設事業所の紹介ができるようになりました。月 1 回程度更新しました。職員採用については頻繁に更新しています。
- ・法人の情報公開を充実しました（現況報告書 資金収支計算書 事業活動計算書 貸借対照表）
- ・法人の事業活動紹介の DVD が広報の実をあげています。

14 家族会後援会との連携

- ・利用者の高齢化と医療の問題について、病院入院時の付添及び差額ベット代の自己負担の実情を通じて今後の対応策を協議しています。
- ・親亡きあと家族としての見守りを引き継ぐ人（後見人も含めて）について問題提起をしています。
- ・本部嘱託職員が家族会・後援会の対外的活動と事務処理等について応援しております。

重点事項の達成状況

1 災害対策の充実強化

- ・各事業所内は充実しました。緊急避難施設（平時、機能訓練棟）が完成したので久喜市在宅障害者避難受入れのネットワークを新年度に構築する予定です。

2 経営財源の確保（全事業所の定員充足の努力）

- ・全事業所をあげての努力がほぼ満足する結果を残しました。

3 人材育成と人材確保

- ・働きやすい環境整備として経営コンサルの活用、産業医の指導の活用を図りました。
- ・育成は OJT の強化を図りました。
- ・人材確保は何とかできているが年々困難になっているので経営上の工夫としてキャリアパス制度の導入と給与改訂の準備ができました。

4 施設整備

- ・予定していたものはほぼ達成しました。前掲

5 支援センターの充実強化

- ・専門職員の配置準備、サテライト相談センター開設準備を整えました。

6 入所利用者の高齢化、重度化へ対応する久喜けいわの旧棟増改築の準備及び資金計画

- ・旧棟改築に至るまで中期整備の計画と資金調達について案を策定中です。
中期整備として男性棟の改築を準備中です。敷地が十分ないので予定用地の取得交渉を行っています。

- ・久喜けいわのサービス全体をみすえた旧棟改築（管理棟、女性棟、厨房等）と既存棟との連結を考慮した上で高齢、重度化対策案と資金計画の策定を準備中です。
- ・啓和会関係事業所の利用者について、親の高齢化に伴い送迎が困難な状況がみられるので送迎対策については、対策を立てる必要がある。